

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101372		
法人名	社会福祉法人せいひ会		
事業所名	グループホームせいひ 爽月ユニット		
所在地	長崎県西海市西彼町鳥加郷2201番地2		
自己評価作成日	平成27年11月28日	評価結果市町村受理日	平成28年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福祉と医療を統合し、入居者の『その時』に合ったより良いサービスを提供する為、平成27年10月1日より、事業所を鳥加の地に移転いたしました。ここにはクリニックも併設されており、今まで以上に安心した生活を営んで頂けるものと確信しています。豊かな自然に囲まれた中で、ゆっくりと流れる時間を共有する。『最後まで人間らしく生きてもらうこと』を理念に掲げ、その人らしさを大切にする事業所であり続けたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、爽月、翠風の2事業所を2ユニットとして統合し、緑豊かで広大な敷地に、新設のクリニックや同法人の他施設と共に集結され、複合型介護施設としてスタートしたばかりである。クリニックの新設による24時間医療連携体制は最大のメリットであり、本人・家族・職員の安心感に繋がっている。敷地内の畑には利用者者と職員が苗を植え一緒に育てており、収穫できる日を楽しみに待っている。運営推進会議に家族が交替で参加しており、意見を運営に反映する等、家族と良好な関係を築いている。また、外部評価年度以外の年も自己評価を行い、行政に自主提出しサービスの質の向上に努めていることは事業所の特長といえる。職員の意見も定期的に法人本部に届く仕組みがあり、意見が反映されるなどやりがいのある職場となっている。センサーマットやポータブルトイレを使用せず、利用者の尊厳を守る質の高い支援が窺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ、見やすい場所に掲示すると共に、事業計画書等にも掲載し、情報を共有する事で、方向性を統一している。	法人理念を基に、事業所独自の理念を玄関に大きく掲示すると共に、日々の申し送りや月1回の会議の折に全職員で理念を共有している。「最後まで人間らしく生きて貰うこと」「悔いのない介護者であること」を念頭に置き、楽しく生活できるように支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の地域交流スペースを活用した地元地区合同による敬老会の開催や、夏祭りへの参加、精霊流し等、地域との交流は一方的ではなく相互にある。	年末には特殊詐欺に遇わないための講演を依頼し、地域駐在を招いている。法人で受け入れる高校生のインターンシップでは事業所も関わっている。新地域で「地域包括ケア」の意義や役割を伝えながら地域との日常的な交流を築くのはこれからである。	前地域と同様に、利用者が地域の一員として活動範囲を広げ、楽しく生活できるように自治会長からの情報、助言を得て、地域と日常的に交流することを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報紙の発行やホームページの公開を行っているが、運営推進会議は良い情報発信の場となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災訓練や外部評価の結果報告はもちろん、入浴やレクリエーション活動の意義と目的等についても紹介し、得られた意見は可能な範囲で運営に反映させている。	規程のメンバーで2ヶ月ごとに開催している。会議の様子が詳細に議事録に記録されており、開かれた有意義な運営推進会議となっていることが確認できる。管理者の積極的な働きかけで新規の家族の出席も多い。メンバー要望により避難訓練参加者を見直すなどサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所移転に伴う関係諸書類の提出や、運営推進会議への参加を始め、日常的に西海市長寿介護課と関係を築いている。	行政担当課は、運営推進会議に積極的に参加しており、事業所実情を伝え、参加メンバーの相談などにもアドバイスするなど良好な関係を築いている。事業所は、外部評価年度以外も自己評価を市に提出し、サービスの質の向上に努めている。市の研修情報を得て受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修のほか、身体拘束廃止委員会による内部研修へも参加し、身体拘束の廃止について、より理解を深めている。日中の施錠はない。	法人は「身体拘束廃止委員会」を設置している。事業所では、うっかり発した言葉をノートに記し、事例検討している。不適切とみられた言葉には、職員同士で注意喚起している。夜間帯はきめ細やかな支援によりセンサーマットの使用はなく、身体拘束しない支援を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心とする委員会活動により、時事的に取り上げられた問題にも目を向けながら啓発を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば研修等に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶと共に、会議等において職員に伝達している。実際に日常生活自立支援事業を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時はもちろん、介護報酬改定、事業所移転に伴う料金変動の際は説明を重ね、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に要望を聞いたり、運営推進会議、サービス担当者会議に入居者や家族が参加する事で、意向を汲み取るよう努めている。加えて苦情、相談窓口についても説明している。	年度初めに年間行事計画を発送し、家族が早期に日程を知ることで参加しやすいよう工夫している。また、法人で毎月発行するせいひだよりに、利用者の様子などを掲載し家族に知らせている。面会時には職員が声を掛け世間話や会話することで意向などを聴取し、管理者に報告しており、対応すべきことは迅速に行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや、月に一度グループホーム全職員により実施している全体会議、更には概ね二週間に一度レポート形式で職員の意見を吸い上げる事ができる。	毎月の職員会議や申し送り時に職員は意見や要望を出している。また、2週間に一度、各職員が管理者に要望や提案のメモを提出し、管理者がまとめ事業所の提案として、法人に提出している。これまでに清拭に使用するタオルを温める方法について、職員の提案を反映し、支援に役立っている例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員それぞれの努力や実績、勤務状況を把握しており、法人総務部を通じて体制を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修については、職員掲示板や全体会議等で参加を促している。受講後は報告書を提出し、その確認により情報が共有出来る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修に参加する事で交流の機会を作り、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	原則として、サービスの利用以前に本人様を訪問し、ご意向を伺う事でより具体的なニーズが抽出出来る。入居後は継続して要望を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は必ず希望や問題点等がないか確認しているが、入居後も電話のやり取りや行事における打ち解けた雰囲気の中で、要望等がないか継続的に確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様及び家族の希望を前提として、まずどのような支援が必要なのか、他事業所とも十分協議しながら方向性を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も入居者と一緒に食卓を囲む等、生活共同体としての関係を築いている為、本人様を介護される一方の立場のみに置く事はない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	地域密着型の在宅事業の一つとして、家族も本人様の支援が可能な資源の一つとして捉えている。事業所の移転に際しては、多大なご協力を頂いた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、行きつけの美容室に外出したり、お盆や正月には外泊する等、馴染みの関係を支援している。	行きつけの美容室、墓参り、彼岸に寺に出掛けるなど、家族の協力を得て支援している。正月や盆には3泊する利用者もおり、事業所が送迎を支援している。また、職員の手が足りない時には法人総務のサポートも得ることが出来ており、利用者の馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーション等、関わり合う為の様々な動機付けにより、入居者同士が自然な形で関わりあう事ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて相談を受け、法人全体で関わりながら、希望に合った退居先を探す為、情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	形式問わず、食事や入浴中等日常生活の中において、自然な形で希望を引出すように努めている。様々な理由により意向の抽出が困難な入居者については、生活歴や家族の意向等を踏まえ検討している。	本人に合った声掛けに配慮している。食事や入浴、利用者が家事を手伝っている時間などに職員がなにげない会話から本人の意向を聞き取っている。表出困難な場合はジェスチャーでコミュニケーションを取っており、遅めの食事の希望にも対応している。ただし、聞き取った生活歴を記録する仕組みが不足している。	本人本位の支援に必要な生活歴の把握は、職員が聞き取っただけでなく、記録する仕組みが望まれる。蓄積した情報から個別支援計画に反映するなど更なる支援の質の向上に繋げることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人様を訪問する事を原則として、家族や他事業所と情報を共有し、併せて日常生活の中から引き出すように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや記録により、利用者の心身の状態把握に努めている。またその人らしさを重視する為、過剰なケアはせず、出来ない部分を介助するケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族の希望、記録や生活歴等をもとに、介護計画の原案を作成する。サービス担当者会議には本人様や家族も出席し、要望等はプランに反映させている。	介護記録やケース記録を基に本人・家族の意向を反映して、原案を作成している。3ヶ月ごとのサービス担当者会議には、本人・家族が参加しており、意向を確認し同意を得てケアプランを実行している。長期1年、短期3ヶ月であるが、身体状況の変化時等には会議で検討し、本人に合ったプランに変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは記録として残し、職員間で情報を共有しているが、情報の共有には能動的な姿勢で、加えてタイムラグを設けない事を重視している。尚、収集した情報は介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には様々なサービスや設備があり、状況に応じて柔軟に対応出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元地区と合同の敬老会参加や近隣高校からの実習生受け入れ等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際は本人や家族の意向を伺いかかりつけ医を決定し、それぞれのかかりつけ医が継続して受診出来るように支援している。	移転に伴い、重要事項説明書を基に家族に説明しており、同法人クリニックをかかりつけ医に変更するには承認を得ている。徒歩で通院できる事や2週に1回の定期受診、往診対応もある。老人保健施設の看護師に判断を仰ぐことも可能で、緊急連絡網に主治医が加わり24時間の医療連携体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人敷地内他事業所の看護職員や、併設クリニックの医師等の協力を得て、情報を共有する事で、適切な受診や看護を受ける事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、可能な範囲で本人・家族の意向を踏まえた医療機関を選択すると共に、医療機関の医師やワーカーと随時情報交換を行いながら、早期に退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人全体を終の棲家として捉えており、本人様のその時の心身状態に合わせて住み替えが可能である。	看取りに関しての指針はない。現時点では、身体状況の変化があれば、環境が整った法人内介護施設への紹介となる事を利用者・家族には入居の際に説明している。今後の終末期については、法人全体で視野を広げている段階である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については日頃より周知しており、状況に応じて併設している介護老人保健施設の看護職員の応援も出来る。また防災訓練において、AEDの使用方法等についても学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消火や避難等様々な種別の訓練を実施しており、夜間の想定も含まれている。これらの訓練には地元消防団や区長等の参加もあり、地域との協力体制が築かれている。夜間には自主点検を行う事で火災を未然に防止している。	移転後初の日中想定消防総合訓練を実施しており、地域住民や消防署、消防団等が参加して消火、通報、避難の訓練である。移転間もないこともあり反省点が多くみられ、反省、検証を基に事業所単独の夜間想定火災訓練を予定している。職員は消火機器取扱や自主点検の励行等、積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の特徴や性格を踏まえ、対応マナーを見直しながら、人格を尊重した対応をしている。また言葉かけの延長として言語抑制についても考えている。	本人の呼び方は家族からの情報を得たり、苗字で呼ぶことを基本としている。帰宅願望のある利用者は、訴えたい話に耳を傾け傾聴することで本人の尊厳や人格を尊重した支援に努めている。家族には個人情報取り扱いの同意を文書で得ており、職員も入社時に守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしく自分のペースで暮らしていく事を前提に、行事やレクリエーションへの参加等、質問のパターンを工夫しながら、さりげなく選択して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの生活ペースを大切にし、起床時間や食事時間の変更等、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際や入浴時に好みの服を伺ったり、行事や外出の際には化粧をする方もいる。また月に一度美容師の訪問があり、ご希望に応じて利用している。家族と一緒に外出し、行きつけの美容室を利用する方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けから片付けまでの工程を入居者と職員が共同で実施する事で楽しみを共有出来ている。食事の内容も入居者それぞれの状態に応じ、減塩やソフト食、アレルギーへの対応等が可能である。	主菜、副菜は法人内の厨房で調理したものが届いており、ご飯と汁物は各ユニットで準備している。嗜好やアレルギーにも対応している。バスハイクではおやつとジュースを持参して楽しんでおり、クリスマスや忘年会では家族と一緒に鍋を囲むなど、食事が楽しみとなるよう工夫している。利用者の中には盛り付けや配膳を手伝う人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により立案された献立メニューに基づき、毎食提供している。入居者の状態に応じ、突発的に刻みやソフト食への変更も可能である。尚、水分摂取量の少ない方には飲み物を変えて提供する等、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者それぞれの好みに合わせた歯ブラシや歯磨き粉の使用を前提に、状態に応じ、磨き直し等の介助を行っている。歯磨き粉を使用されない方、入れ歯洗浄剤を使用される方等様々である。また口臭や風邪予防の為、うがいにはお茶を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者それぞれの生活習慣であるトイレでの排泄を前提とし、必要に応じて排泄パターンを把握しながら支援している。概ねオムツ使用の軽減に繋がっている。	事業所は居室にポータブルトイレを置かず、トイレでの排泄支援を基本としている。退院時にリハビリパンツだった利用者が職員の声掛けによるトイレ誘導で布パンツ使用に改善した例がある。布パンツに替えて尿意の訴えがあり、夜間帯も定期的に声を掛け、失敗ないように誘導しており、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の乳製品提供に加え、散歩やラジオ体操等の運動、腹部マッサージを行う等して、便秘を予防している。起床時に冷水を飲む方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者それぞれが入浴の回数や曜日を定める事が出来るほか、季節により柚子湯や菖蒲湯等、入浴を楽しめる工夫をしている。またシャンプーや石鹸も入居者の希望に合わせている。	週に3回は入浴できるよう支援している。現在、車椅子利用者の人はいないため、全員が湯船に浸かっている。シャンプー、石鹸などは家族が準備しており、本人の好みを反映している例もある。季節にはしょうぶ湯やゆず湯を入れ、入浴剤で気分を変えるなど入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動においてレクリエーション等でリズムを作り、夜間は空調や照明に配慮している。入居者それぞれに安心して休む事が出来る寝具を使用しており、冬場は湯たんぽ、夏場はアイスノンを使用する方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の薬情報や医師の指示を、申し送りや薬表を通し共有している。頓服薬や軟膏、湿布等も用法や使用目的を含め、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き、毎食の献立表の記入等、自然に役割が分担されている。また行事やレクリエーション等、本人がやりたい事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や行事等による外出、畑作業のほか、家族の協力を得ながら外出や外泊も支援している。近隣公園へのバスハイクには家族の参加も得られた。	季節や天候を見ながら、利用者は敷地内の散歩を楽しんでいる。日常的に洗濯物を干したり取り込んだり、畑の野菜の成長を見物するなど戸外に出ている。また、季節ごとのバスハイクや行事に家族が参加し、利用者と一緒に戸外での団らんを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者や家族の希望に応じて、所持が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は総務部にて預かる事ができ、必要に応じて介助を行っている。年賀状が届く方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を配置したり、可能な限り日光の暖かみのある採光に配慮している。冬場はこたつを設置したり正月には門松や鏡餅も飾られる。	広々とした明るいリビングは、遠くの山々や野菜の苗が植えられた畑の畝を眺めながら、季節を感じる事ができる。利用者が空調管理されたりリビングで好みの椅子に座って寛いだり、天候次第では廊下の手すりを使い、脚力強化を兼ねて歩行している。職員による毎朝の清掃で臭いもなく清潔な環境に整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士が過ごせる場所を設けたり、入居者の意思を尊重し、一人で寛げる空間もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、居室には馴染みの寝具や家具等の持ち込みがある。自分の居室として居心地良く過ごして頂いている。	使い慣れたものを持ち込むことができるが、移転間もないため、居室が殺風景であり居心地のいい居室となるには時間が必要である。居室ドアの透明ガラスのスリットは明かり取りや管理面などでメリットは十分理解できるものの、利用者の尊厳、プライバシーの保持に欠けている。	利用者が居心地よく過ごせるように、本人・家族の好みの物を尋ねながら少しずつ増やして、温かみのある居室になることを期待したい。また、利用者の衣類交換時や睡眠時など尊厳やプライバシーの保持を重視した検討が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、移動の際に使用する他、歩行訓練にも活用している。また食事の際には個別の椅子を使用しているほか、食器拭きや洗濯物たたみ等、個々の能力に応じた支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101372		
法人名	社会福祉法人せいひ会		
事業所名	グループホームせいひ 翠風ユニット		
所在地	長崎県西海市西彼町鳥加郷2201番地2		
自己評価作成日	平成27年11月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成27年10月1日に、福祉医療の連携した質の高いサービス提供を目指す為、事業所を鳥加地区へ移転しました。居間からは山や畑が見えており、季節により四季を感じる事が出来ます。この恵まれた自然環境を活かしながら、事業所の理念である『最後まで人間らしく生きてもらうこと』の実現に向けて、日々の業務に取り組み、安心して生活して頂ける様努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、玄関に設置する事で、常に職員の目につきやすい体制を確保しており、日々の申し送り、全体会議、加えて事業計画書等で共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元地区合同での敬老会では、法人の地域交流スペースを開放し地域・事業所間で相互に交流を図っている。また精霊流しや近隣神社での夏祭り等、様々な交流の場がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催と併せ、広報紙の発行やホームページの公開を行っており、情報発信に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員を始め、地域住民や家族等が参加しており、行事の紹介や消防訓練の結果等を報告している。会議で得る事が出来た意見や要望に関しては、可能な範囲で運営に反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価結果報告や運営推進会議開催報告書、利用者異動届の提出等、直接的な関わりを持っており、法人総務部を通して協力関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に、日常的に啓発活動を行っており、法人内外の研修へ参加を励行する事で、身体拘束をしないケアについて取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会によるニュース記事の紹介や内部、外部研修への参加等により高齢者虐待防止についての理解を深め、報告書や全体会議等で全職員に情報を共有し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について利用希望の方がいる。制度の概要や利用に至るまでの手順等を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に重要事項説明書に関し、十分な説明を行っている事に加え、随時疑問点がないか尋ねながら、理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情案内の掲示やご意見箱の設置を行っており、運営推進会議やサービス担当者会議等へ出席して頂く事で、意見や要望を引き出すよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や毎日の申し送りに加え、2週間に一度職員からの意見や提案について集約する等して、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員それぞれの努力や実績、勤務状況を把握しており、法人総務部を通じて体制を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部及び外部研修への参加は、職員掲示板にて積極的に参加を促し、研修受講後は報告書を提出、全職員が閲覧する事で情報を共有出来る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修に参加する事で交流の機会を作り、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	原則として、サービスの利用以前に本人様を訪問し、ご意向を伺う事でより具体的なニーズが抽出出来る。入居後は継続して要望を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご希望や不明な点がないかを伺う様にしており、入居後も面会時や電話連絡等により、継続して要望等に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様及び家族の希望を前提として、まずどのような支援が必要なのか、他事業所とも十分協議しながら方向性を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員が、介護者と被介護者という関係ではなく、家族の様な関係を築き、日常生活の中で支え合う関係作りを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な範囲で家族からの要望は受け入れる様にし、困っている事等があれば相談を受けながら、入居者を共に支え合う関係作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末年始やお盆の外泊等、ご希望に応じて外泊する事が出来、馴染みの人や場所との関係が途切れない様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が一堂に会する場所を設け、食事や家事、レクリエーション活動を通して、集団から孤立してしまわないよう、必要に応じて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて相談を受け、法人全体で関わりながら、希望に合った退居先を探す為、情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から自然な形で入居者一人一人の希望を引出し、意向を確認する様にしている。意向確認が困難な場合は、生活歴等を参考にしながら、思いを汲み取る様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人様を訪問し情報を収集しており、入居後も日常の会話の中から情報を引出し、サービスに活かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過剰な介護は行わず、入居者の有する能力に応じて、出来ない部分のみを介助する事で、生活の質の向上に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活や面会時等に本人様や家族からご希望を聞き出したり、アセスメントやサービス担当者会議検討表を基に介護計画を作成している。サービス担当者会議には本人様や家族にも参加して頂き、可能な範囲で希望に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等については記録として残し、職員間で情報を共有しており、それらの情報を参考にしながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には様々なサービスや設備があり、状況に応じて柔軟に対応出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署立合いによる消防訓練や、近隣高校からの実習生受け入れ等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族と話し合い、かかりつけ医を決定している。かかりつけ医からは十分な協力体制が得られ、定期的に情報交換を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設クリニックの医師や老人保健施設の看護職員の協力を得て、適切な受診や看護を受ける事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師やワーカーと随時情報交換を行い、早期に退院出来る様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、本人様にとってより良い環境でサービスを受けられる体制にある事を説明し、心身の状態変化に応じて、随時対応を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については日頃より周知しているが、状況に応じて併設している介護老人保健施設の看護職員の応援やクリニック医師による対応も得る事が出来る。また消防署指導の下、AEDの使用方法等についても学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防災対策委員会を中心に消防総合訓練等を実施し、訓練の際には隣接施設や消防署の協力も得ており、地域住民や地元消防団の参加もある。また、日々自主点検を実施する事で、火災を未然に防止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者それぞれの人格や意思を尊重した言葉かけを行い、声のトーンや話すテンポ等にも注意し、言葉かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつの際の飲み物の選択や、昼食の選択メニュー等、入居者自身に選んで頂く事が出来る様、自然な声掛けと支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの日々の過ごし方は、好きな時間に新聞やテレビを観る方、パズルや歩行練習に取り組む方等様々である。就寝や起床時間も入居者に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に好みの服を一緒に選んでいるほか、併設老健へ来苑する美容師もご希望に応じて利用できる。事業所には化粧セットがあり、行事等の際にはおしゃれに配慮している。毎朝化粧を日課にしている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁物の味見や食器拭き、食事の盛り付け等、入居者と共に行っており、職員も入居者と一緒に食事を摂る事で、旬の食材についての話をし、食事を楽しめる様に支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録により摂取量の確認を行っている。食事形態についても硬い物はその場で刻む等、柔軟な対応に配慮している。尚、摂取量の少ない方については、補食や飲み物を変えて提供する等の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて磨き残し等の介助を行っており、口腔内が清潔に保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から排泄パターンを把握する事で、一人一人に合わせた排泄形態や、トイレへの誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の散歩に加え、入浴時や排泄時の腹部マッサージを行う事で、便秘予防に取り組んでいる。また毎朝の乳製品提供と並行して、黄な粉を摂取する方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数や入浴日も入居者それぞれであり、季節に合わせた菖蒲湯や柚子湯等を実施し、入浴を楽しめる様工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ラジオ体操やレクリエーション活動、家事手伝い等で日中の活動量を増やし、必要な方には空調や照明の調整等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者毎に薬表をファイリングしており、内容に関しては常に確認出来る体制にある。尚、医師からの指示等は申し送りで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活における家事手伝いにおいて、自然と役割が分担されており、レクリエーション活動やパズル等、楽しみを持った生活が出来る様に支援してる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や行事等による外出、畑作業のほか、家族の協力を得ながら外出や外泊も支援している。近日は外出し芋ほりを実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族了承の下、個人で財布を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は総務部にて預かる事ができ、必要に応じて介助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には温・湿度計を設置し、出来るだけ外からの日差しを取り入れる事で居心地よく過ごせるように工夫している。また手作りのカレンダーやアルバムを設置し、家庭的な雰囲気の中で、思い思いに過ごせる空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、椅子、ソファ等形の違う場所を確保し、自由に過ごせる空間づくりに努めている。冬場はこたつの設置もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、使い慣れた家具や椅子、食器類の持ち込みもあり、自分の部屋として安心して過ごして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の際には専用の椅子を準備したり、入浴時には滑り止めマットを使用する等、安全面に配慮している。		